

外部資源活用し将来の成長可能性高める

グループの共創通じて新事業も実現

事業者インタビュー



レナタスグループ
HARITA 代表取締役
張田 真氏

資源循環の高度化や人口減少、後継者不足などの構造的な環境変化により、資源循環業界は大きな変革を迎えている。業界の将来や潮流を見据えた取り組みが模索されるなか、外部資源を活用し新たな成長への道筋を描く企業もある。今回は、レナタスグループのHARITA（富山県高岡市）の代表取締役である張田真氏に話を聞いた。

——意思決定の原点は。
張田 検討の出発点は、未来への危機感だった。人口減少が進んでしまう「縮む時代」には、経済縮小と業界再編の波が必ず来る。経営者の責任は未来をつくることだ。成長の

る。関係者が共通認識を持ち、意思決定できるカバナンスを整えることが重要だ。役割を明確にし、実力本位の経営体制を整えたことで、社員の意欲も高まった。企業としての経営を強めるほど、成長の可能性は大きく広がる。

——外部資本を受け入れ、今に至る経緯は。
張田 “所有”の成長には「時間を買う」という発想が必要だ。資本・人材・知見を外部と組んで補わなければ、現在の急激な環境変化に追いつけない。J-STARS（レナタスグループを結成した投資会社）は将来構想への対話力があり、社名と独立性を保ちつつ外部資源を活用できることが見込めたため、2017年に資本参加を受け、23年のレナタス設立を機に今に至る。将来の成長可能性を重視した判断だった。

た。現在も、この選択は正しかったと確信している。

——グループの特徴は。
張田 特定のオーナー企業を出自としない点だろう。「共創経営」という理念を掲げており、参加企業が対等な立場で連携して“自律”と“連帯”を両立させている。各社が自律的に成長し、その力がグループ全体の成長とシンクロする構造にある点特徴的な強みだ。

——グループ内でのシナジーとその実感は。
張田 最大のシナジーは、各社の経営資源を結集し、新たな事業機会を創出できる点だ。技術・営業の知見共有で発想が広がり、成果も出始めている。当社の新たな取り組みである焼却灰リサイクルの事業化は、グループ連携によって実現した。経営者同士の対話が増え、視座が高まり、経営の質そのものが引き

上げられていると感じている。

——今後の展望は。
張田 共創型プラットフォームの構築を自らの使命として推進し、単独成長を超える価値創出を目指す。変化を先取りする経営の好事例として先頭に立ち、業界の発展にグループで貢献したい。その実現に向け、政府の政策委員等の公的活動にも尽力する。また、同じ悩みを抱えるオーナー経営者に寄り添い、その力になりたいと考えている。